君津市周西公民館　家庭教育支援講演会記録　　期日　令和６年８月２４日（土）
講師　原園　康寛さん（不登校専門家庭教師）

不登校サポート！

学校になじまない子の理解と支援

〇不登校の近況

・文部科学省平成 28 年通知「児童生徒の才能や能力に応じて、それぞれの可能性を伸ばせるよう、～中略～　様々な関係機関等のを活用し社会的自立への支援を行うこと」。
　⇒出席日数への考え方が柔軟に

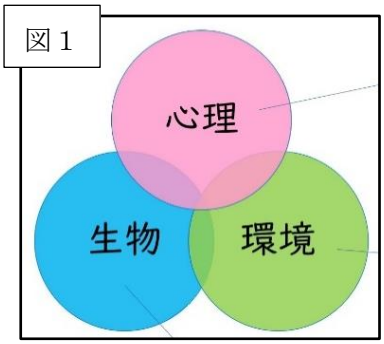
・発達障害の認知件数増加

・ラインやメールなど連絡方法の多様化

不登校児童生徒が増えるのが当たり前の世の中に

〇不登校を分析するための３要素

図１



・心理　うつ病、PTSD などの精神疾患
　傷つき体験、焦燥感、劣等感、自己不全感など外部要因に起因

・生物　発達障害、知的障害、身体障害、疾病など
　変えることが難しい

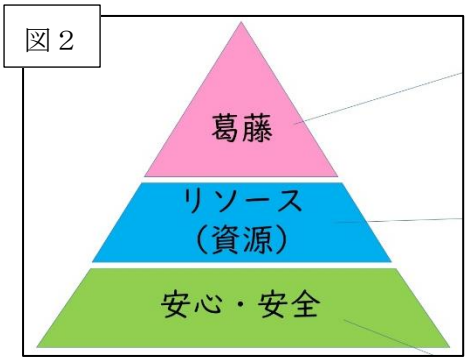
・環境　他者、場所、物など外部から受けるストレス
　いじめなど人間関係によるストレス

今子どもが置かれている状況は？

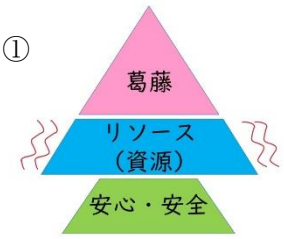
〇葛藤について

葛藤は、行動を変化させるために必要な要素だが、抱え続けるのは大変

図２

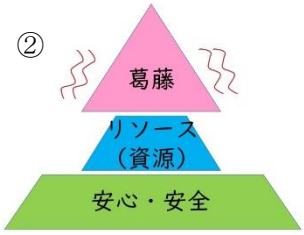


①



安心・安全が確立されていないと
リソースは築くことができない

②



リソースが不足していると
葛藤を抱えることができず
葛藤回避の行動をしてしまう

「図１」「図２」は齋藤暢一朗 2017 家族支援日本臨床心理士会監修
『ひきこもりの心理支援―心理職のための支援・介入ガイドライン』金剛出版．をもとに作成

①「学校に行きたい⇔行きたくない」という葛藤を抱えるためのリソース
「仲のよい友人と遊ぶ」があったとしても、「家で暴力を受ける不安」「食事がとれない」など「安心・安全」が確立していなければ、楽しく遊ぶこともできない。
②「成績上げたい⇔勉強したくない」
「わかりやすい指導」というリソースがあれば、投げ出さずに持続できるかもしれない。

○リソース（資源）とは
本人が解決行動に移るために（葛藤を持続するために）必要な資源
・抱え続けることができる要素（相談相手など）
・本人を良い状態に維持する要素（気持ちが上がるもの、趣味、嗜好）
・いやな体験（悪口を言われた、金欠状態など）

本人と支援者のリソースがかみ合えば、より強いリソースになる

Q＆A

Q：原園先生は子どもの再登校を目標としているのか
A：その先の就労などをふまえており、再登校が目的ではない。その子に合わせたゴールがある。

Q：学校が個々に寄り添うことはできないか。そういう学校を目指せないか
A：学校の設備的に難しい部分もある。フリースクールが木更津にあるが、全員の最適な環境を作るのはむずかしいのでは。一番個々に寄り添える場所は自宅？学校が変わってみんながいけることが幸せなのか。

感想（一部抜粋）

・身内が不登校になりかけており、今回興味を持ち参加させて頂きました。今回お話しして下さった事例のお子さんは中学生以上の方が多くその年齢位で問題とし相談をされる方が（ご家庭が）多いのかなと感じました。また、家族の支援や理解がある側にメンターとしての家族の存在が必要であると感じました。

・葛藤－資源の三角形は、とてもわかりやすく、重要な事だと思いました。また葛藤を持続することの重要性も理解しました。先生のような支援者に出会える事ができれば、前に進むことができるのでしょうが、悩める子供たちが、その子に合った支援者にめぐり会える状況をつくれたらなあと思います。

・不登校に関する様々な事例や対応、成功例、未達成部分など色々な方面から目線をかえて見ることが出来たので良かったと思う。不登校の子ではない子にも使える対策だったりもするので、幅広く視線をかえて取り入れていきたいと思う。ありがとうございました。

・今回初めてこういった回に参加させていただき、とても有意義な時間になりました。また、このような会があった際には、もっと沢山の事を知りたいと思います。今日参加された方がどういった内容で悩まれているのかなどディスカッションの時間があればもっと良かったかな…と。

・不登校に関して知らないことが知れてよかったです。

（文責　周西公民館　山田）